

令和6年度「北上市入退院支援のハンドブック」2023年度版を活用した連携会
～ 報告書/概要編 ～

1 目的

令和6年1月に2023年度版として改訂した「北上市入退院支援ハンドブック」を活用して、入退院支援に従事する医療や介護専門職等の連携推進と更なる資質の向上を図ることを目的として開催する。

2 主催：北上市入退院支援作業部会

3 共催：地域包括支援センター主任ケアマネ部会

4 開催日時、場所及び参加人数

	地域包括支援センター名 (5 圏域)	開催日時	会場	参加 人数
①	いいとよ（黒北・飯豊）	令和6年10月10日（木） 13時30分～15時00分	飯豊地区交流 センター	41
②	北上中央（相去・鬼柳）	令和6年9月25日（水） 13時30分～15時00分	特別養護老人ホーム 敬愛園	37
③	展勝地（立花・二子・更木・ 黒岩・口内・稲瀬）	令和6年8月22日（木） 13時30分～15時00分	口内地区交流 センター	39
④	本通り（黒東・黒西）	令和6年11月11日（月） 13時30分～15時00分	特別養護老人ホーム さくら爽	39
⑤	わっこ（江釣子・和賀）	令和6年10月16日（水） 13時30分～15時00分	江釣子地区交流 センター	36
合 計				192

5 受講対象機関及び参加者

(1) 医療機関の職員

岩手県立中部病院、北上済生会病院、花北病院、北上駅前病院、ホームケアクリニックえん、近隣の入院医療機関（岩手県立東和病院）、市内調剤薬局

※ 入退院支援に従事する専門職員等（退院支援看護師、医療ソーシャルワーカー等）、薬剤師等

(2) 介護事業所等の職員

地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護、（看護）小規模多機能型居宅介護、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、認知症対応型共同生活介護、特定施設入居者生活介護、圏域内居宅介護事業所等（訪問看護、訪問介護、通所介護、福祉用具販売等）

(3) 行政の職員

長寿介護課（保健師、事務職）

6 内容

- | | |
|--|----|
| (1) 地域包括支援センター各圏域の状況について（北上市長寿介護課） | 5分 |
| (2) 令和5年度関係機関・団体等ヒアリング結果と抽出された主な課題について（北上市長寿介護課） | 5分 |

- (3) 令和6年度診療報酬・介護報酬ダブル改定のポイントについて 10分
「医療と介護の連携推進の観点から」(在宅きたかみ)
- (4) 入退院支援ハンドブック2023年度版の説明「STEP0～4」 20分
について、実践的に確認してみよう(入退院支援作業部会)
- (5) グループワーク：テーマ「未来に繋ぐ連携」(主任ケアマネ部会) 50分
5～8人のグループに分かれて、ハンドブック「STEP0～4」についてメンバーで話し合う。話し合った内容をグループごとに発表して全員と共有した。

● グループワーク話し合いのまとめ(概要) ●

各グループでの話し合い(メモ書き)や発表内容について、STEP0から4ごとにキーワードを整理して下記のとおり取りまとめた。詳しい分析はこれからとなる。

項目		STEP0	STEP1	STEP2	STEP3	STEP4
		在宅・施設生活 (日常の療養支援)	入院時(3日目 以内を目安に)	退院調整期・家族 への病状説明以降	退院確定・退院 前カンファレンス開催	退院時から在宅・施設生活 (退院後1か月程度)
グループワークで出てきたキーワード	在宅情報					
	住居環境					
	ケアマネジャー					
	外来看護師					
	診療所(かかりつけ医)					
	薬局・お薬手帳					
	福祉用具					
	わたしのきぼうノート					
	身寄りなし(独居)					
	在宅(家族)の介護力					
	本人・家族の意向					
	病棟看護師・退院支援看護師					
	医療ソーシャルワーカー					
	診療報酬・介護報酬					
	病状説明・入退院支援計画					
	看護サマリー					
	リハビリ職・リハ見学					
	回復期・転院					
	退院前カンファレンス					
	介護認定・介護施設					
	食事・栄養・口腔					

- ・どんな情報が欲しいか医療側、介護側双方でわかっていないようだ
- ・本人や家族の意向が不明で、退院先、退院後の支援に苦労しているようだ
- ・身寄りがいない患者さんや独居高齢者などの入退院支援で連絡先(キーパーソン)が見つからないようだ
- ・入院時と退院時のADLや食事形態が異なり、在宅療養の支援計画(ケアプラン等)に苦労しているようだ

● 地域包括支援センター5圏域参加者アンケート結果 ●

延べ参加者：192名（2か所以上の連携会に参加した者がいるため）

① 職種を教えてください

職種	人数	職種	人数
介護支援専門員	52	薬剤師	3
介護員	1	認知症地域支援推進員	1
訪問介護	3	福祉用具専門相談員	3
施設長	2	生活相談員	2
社会福祉士	3	生活支援コーディネーター	1
MSW	9	その他	4
看護師	14	不記載	32
医師	2		
保健師	5	(回答：137名)	

※アンケートで職種記入者のみ（105人）

職種	人数	割合
医療職	33	31.4%
介護職	68	64.8%
その他	4	3.8%

② 「北上市入退院支援ハンドブック」を知っていましたか

知っていたし活用したことがある	76
知っていたが活用したことがない	48
知らなかった	13

③ 「北上市入退院支援のハンドブック」は業務に役立ちますか

役に立つ	100
まあまあ役に立つ	36
あまり役に立たない	1
役に立たない	

【その理由】

- ・STEP0～4の場面別に、医療・介護従事者それぞれの立場で必要なことが一目でわかる
- ・知りたい情報、伝えた方がいい情報が一目でわかる
- ・入院前からの備え、入院～退院まで一連の流れを確認しながら業務を進める事ができる
- ・手順書になっており業務内容が確認できる
- ・重要なポイントが可視化されている
- ・学習会/新人研修/院内研修に使用している
- ・医療福祉サービスのチェック項目があり役にたつ
- ・自分のやり方で良いのか迷ったときに確認できる
- ・ハンドブックの内容と現実が違うことがあるため

④ 連携会に参加した感想

良かった	1 2 3
まあまあ良かった	1 3
あまり良くなかった	
良くなかった	

【その理由】

- ・いろいろな職種の方と交流、意見をきくことができた
- ・これまで関わったことのない方と話をすることができた
- ・利用者、家族のためにという希望を持って話し合いができた
- ・グループワークの時間が短かった
- ・もう少し深堀りしたいところもあったが時間がなく残念だった
- ・医療機関、施設などそれぞれの状況や課題をすることができ、今後に活かしていきたい
- ・普段、電話でのやりとりが多いので集まることができて良かった
- ・多職種でのグループワークは考え方の視点が違い良い刺激になった
- ・普段感じていることを聴くことができ、自分がやらなければならないことに気付くことができた
- ・それぞれの立場により関わる状況は変わってくるが同じ方向を見ていることを強く感じました
- ・在宅医療介護連携における地域の課題を確認できた。本人の心づもりや意思決定に活かしていきたい
- ・違う職種の方々と話し合いを通して薬局がいかに情報不足の状態で患者様と対面しているかわかった。もっと患者背景を知り日頃の業務に努めたい（薬剤師）
- ・市内の基幹病院の現状を知ることができた。テーマを決めて普段話せないことも話せてよかった
- ・連携情報は今後もっと詳細にした方がよい。とくに栄養や口腔について。